

安心と効率を両立する ～介護現場の新たな挑戦～

社会医療法人 養生園 介護老人保健施設
リハビリセンターグリーンTAOKA
施設長 中川 清美

施設紹介





TAOKAメディカル・ウェルフェアシステム

医療法人

きたじま倚山会

きたじま田岡病院
 TAOKA 訪問リハビリセンター北島
 TAOKA 訪問看護ステーション北島
 TAOKA 通所リハビリセンター北島
 TAOKA デイフィットネスセンター北島
 TAOKA ケアプランセンター北島
 TAOKA ヘルパーステーション北島

医療法人 倚山会

田岡病院
 TAOKA 訪問看護ステーション万代
 TAOKA 訪問看護ステーション山手
 TAOKA ケアプランセンター山手
 TAOKA ヘルパーステーション山手
 TAOKA 訪問リハビリセンター万代
 TAOKA 通所リハビリセンター万代

社会医療法人 養生園

TAOKAこころの医療センター
リハビリセンターグリーンTAOKA
 TAOKA 訪問看護ステーション 蕾
 TAOKA グループホーム 樹庵
 TAOKA こころのデイケア わおん
 TAOKA 認知症デイケア ソナタ
 TAOKA 多機能型事業所 清風
 TAOKA グループホーム
 清風・清祥・きよら

労働者健康安全機構 相談機構

メンタルサポート徳島

れもん 特別養護老人ホーム
 れもん徳島駅前 ライム
 れもんホーム れもんワークス
 地域相談支援センターれもん スタジオれもん
 れもん吉野 地域活動支援センターれもん
 ケアセンターれもん 介護老人福祉施設令陽
 れもん生活支援センター

社会福祉法人 カリヨン

NPO法人 とくしま発達 支援センター

れもんキッズ藍住
 れもんキッズ石井

グリーンTAOKA の概要

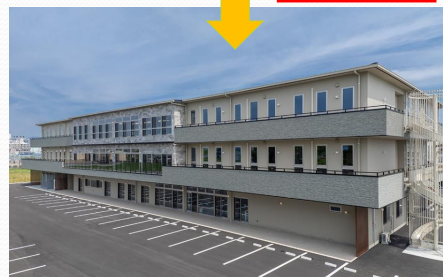
開設日：1991年9月3日（リハビリセンターグリーン丈六）
 移転日：2024年7月1日（リハビリセンターグリーンTAOKA）

施設名称：社会医療法人 養生園
 介護老人保健施設
 リハビリセンターグリーンTAOKA

事業内容：介護老人保健施設（超強化型）：95床
 （介護予防）短期入所療養介護（ショートステイ）
 （介護予防）通所リハビリテーション（40名）
 （介護予防）訪問リハビリテーション
 居宅介護支援事業所（同グループ事業所があるため廃止）



15km



新築移転決定後

◆2022年12月全職員公表

- ① 2023年1月全職員にアンケート実施
- ② アンケート結果を基に施設長面談

◆上記①②を半年に1回開催

【アンケート内容】

- 移転を聞いた感想
- 移転後も継続就業したいか・その理由
- どうすれば、全職員が移転後も働けるようになると思うか
- 自由記述

Warm Care & At Home in 川内
～ みんなで行こう、新天地 ～
2022年1月08日
リハビリセンターアンケート実施

就業意向アンケート

いつも施設運営にご協力いただきありがとうございます。
再建が決まりました。2024年春頃を目途に施設の新築移転が決定しました。
これまで頑張ってくれた職員の方々に新しい施設でも一緒に働きたいと思っています。
職員の方々の新施設でも働けるように、施設としてどのような事に取り組んでほしいのか
皆さんの思いを知り、今後の取り組みに活かすため、アンケートにご協力をお願いします。

記入者名：

1) 将来的に新築移転するのと聞いてどのように感じましたか
例：うれし、よかった、悪いでなかった、特に何も感じない等

2) 将来的に移転しても、引き続き働いてもらえるか
例：はい、いいえ、分からない

3) 2)で「是」に回答の理由は何ですか
例：新施設でもみんなと働きたいから、通勤に時間がかかるから、家との距離で通勤し
難くない、家との距離に悩まされたい、まだ内のことだから等

4) どうすれば、あなた自身が新築移転でも働けるようになると思いますか
例：フレックスタイムや在宅勤務、フレックスタイム制を導入する、介護ロボットや
ICTを活用し業務や作業の負担を軽減する、業務内容を充実させる等

ご協力ありがとうございます。この情報は匿名で活用させていただきます。

職員アンケートでの意見

【質問】どうすれば、あなた自身や同僚が新施設でも働けるようになると思いますか？

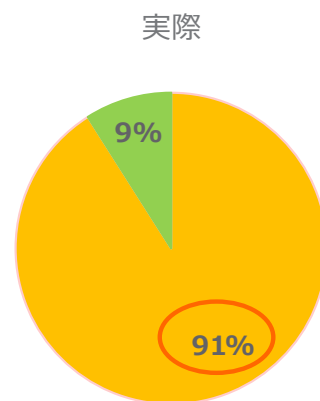
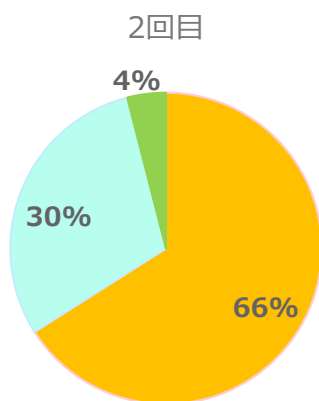
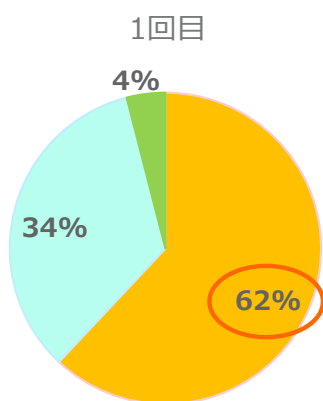
- 最新設備を完備し、自慢の施設にする
- 介護ロボットを積極的に取り入れ、職員の負担軽減を図る
- 移乗用リフト（天井走行型）の導入
- ICTを活用した利用者情報の共有
- 休憩室にWi-Fi完備
- ベッド、床頭台、車椅子等備品を新しくしてほしい
- リハビリ機器の充実
- 送迎車を出す
- フレックスタイムのような渋滞を避けられる勤務時間の創設
- 特別休暇を増やす
- 通勤手当の見直し
- 給与・手当等の見直しなど



職員アンケート結果

対象者：EPA介護福祉士候補者を除く 79人

■ 移転後も働く
 ■ 分からない
 ■ 退職する



令和7年度 介護職員の働きやすい職場環境づくり 内閣総理大臣表彰及び厚生労働大臣表彰式



厚生労働大臣表彰 優良賞受賞



【総理官邸にて】

リハビリセンターグリーン TAOKA

厚生労働大臣表彰優良施設・居住サービス部門

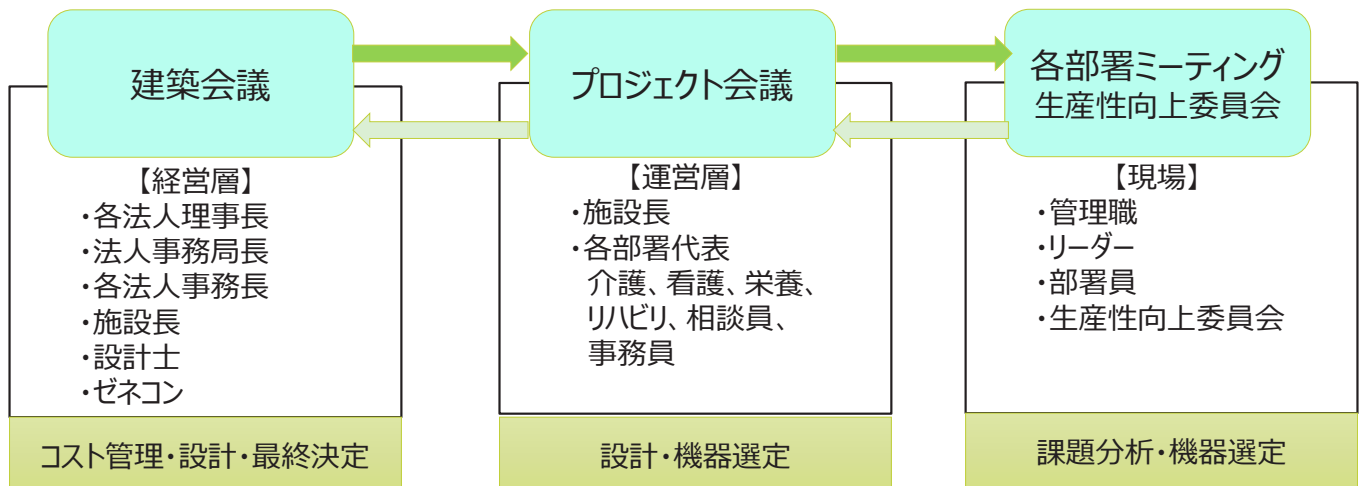
▲ノーリフトケアで職員の身体的負担を軽減している

	①生産性向上の取組 テクノロジー導入による業務効率化	②職員の待遇改善に係る取組 施設移転に伴う通勤支援の強化	③人材育成に係る取組 職員からの意見・提案の活性化														
主な課題	情報伝達・記録入力などが非効率で、職員の負担が重くなっていた。新築移転をきっかけに、テクノロジー導入を進めていく必要があった。	施設の新築移転に伴い、通勤事情が悪化する職員が多く、就業継続への不安が高まっていた。	以前から面談制度はあったが、実際には相談・提案のしづらさがあり、個人の意見表明やキャリア形成の支援が不十分であった。														
取組開始時期	平成28年12月～	令和4年12月～	平成30年8月～														
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓インカム、ケア記録支援ソフト、シートセンサー型見守り機器、ナースコール機能付き見守りカメラシステム・ノーリフトケアを導入し、業務効率化・利用者の安全性向上・職員の身体的負担軽減等を実現 ✓車椅子洗浄機を導入し、介護助手に車椅子の洗浄業務を担ってもらい、職員の負担軽減と施設の衛生を改善 ✓テクノロジーの施設見学を積極的に受入 	<ul style="list-style-type: none"> ✓時差出勤制度を導入し、各職種で勤務時間のパターンを増やした。 ✓通勤手段の選択肢を広げるため、公共交通機関の利用を希望する職員については、運行状況に合わせた勤務時間に変更 ✓一部職員に対し、3か月間通勤送迎を実施 ✓職員からの要望に応え、通勤手当を見直し、単価を引き上げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓全職員が閲覧できるPC内の共有フォルダに、誰でも記入できる「何でも質問シート」と「提案制度」を設けた。 ✓提案制度は、提案があれば運営委員会で協議し回答するというルールにした。 ✓R6は職員から24件の提案が寄せられ、うち15件が採用につながった。 ✓職員の提案から、「介護福祉士実務者養成施設」を設置し、外国人を含む資格取得支援を開始 														
取組前後の成果指標	<table border="1"> <tr> <td>ケア記録にかかる時間(利用者1人分)</td> <td>20分/日(R2) →5分/日(R6)</td> </tr> <tr> <td>居室巡視にかかる時間(1フロア)</td> <td>30分(R2) →5分(R6)</td> </tr> <tr> <td>施設見学受入件数</td> <td>2件(R2)→15件(R6)</td> </tr> </table>	ケア記録にかかる時間(利用者1人分)	20分/日(R2) →5分/日(R6)	居室巡視にかかる時間(1フロア)	30分(R2) →5分(R6)	施設見学受入件数	2件(R2)→15件(R6)	<table border="1"> <tr> <td>通勤手当(1人当たり)</td> <td>7,572円(R4) →8,791円(R6)</td> </tr> <tr> <td>施設移転後の就業継続を不可・不明とした職員の割合</td> <td>38%(R4) →8.9%(R6)</td> </tr> </table>	通勤手当(1人当たり)	7,572円(R4) →8,791円(R6)	施設移転後の就業継続を不可・不明とした職員の割合	38%(R4) →8.9%(R6)	<table border="1"> <tr> <td>職員からの提案数</td> <td>5件(H30) →24件(R6)</td> </tr> <tr> <td>介護福祉士有資格者数</td> <td>19人(H30) →28人(R6)</td> </tr> </table>	職員からの提案数	5件(H30) →24件(R6)	介護福祉士有資格者数	19人(H30) →28人(R6)
ケア記録にかかる時間(利用者1人分)	20分/日(R2) →5分/日(R6)																
居室巡視にかかる時間(1フロア)	30分(R2) →5分(R6)																
施設見学受入件数	2件(R2)→15件(R6)																
通勤手当(1人当たり)	7,572円(R4) →8,791円(R6)																
施設移転後の就業継続を不可・不明とした職員の割合	38%(R4) →8.9%(R6)																
職員からの提案数	5件(H30) →24件(R6)																
介護福祉士有資格者数	19人(H30) →28人(R6)																
負担軽減・満足度指標	1人あたり有給休暇取得日数 ※1 離職率 ※2	9.5日(R1) 17.4%(H30) → 13.3日(R5) 8.6%(R6)															

※1 全職員の合計有給取得日数/全職員数(非正規職員を含む) ※2 離職した介護職員数/当該年度に在籍していた介護職員数(非正規職員を含む)

新築移転に向けて 会議：月1回～週1回開催

理事長方針：最新の介護テクノロジーの導入・科学的介護の実践



介護テクノロジー選定に向けて

- 新築移転に際してのキーワード

理事長方針「最先端の介護テクノロジーの導入」「科学的介護の実践」

- 「生産性向上委員会」の設置

【目的】介護テクノロジーによる
業務改善、生産性向上

- 【課題】①利用者からのコール対応による
業務効率の低下
- ②利用者像の変化による職員の負担増大
 - ③車椅子の衛生管理が不十分



課題①「利用者からのコール対応による業務効率の低下」

【業務課題の具体例】

- 利用者対応中に他利用者からのコール確認が困難
- 同時コール時の対応遅れ・転倒事故
- 職員同士の重複対応による無駄足



見守りカメラ



見守りカメラシステムの選定

- カメラのデザイン、設置場所
- 映像（カラー、モノクロ、シルエット）
- 検知
（方法、範囲、項目、設定方法）
- 通知方法
（通知音、種類、音声案内）
- 映像データ
（確認方法、記録時間、保存量）
- ナースコール機能の有無
- 安全性
- 操作性
- サポート体制
- データ活用
- 他システムとの連携
- 導入費用、ランニング費用
- 保証
- その他のできること
- 導入施設の生の声

システムの機能

- ➡ AIによる動作検知
 - ・ベッド起点（寝返り・立ち上がりなど）
 - ・居室やトイレへの入退室
 - ・居室エリア内（うずくまり、転倒など）
- ➡ 検知項目ごとに個別設定可能



システムの機能と運用

- AIが検知 ➡『起き上がりましたよ』『歩きますよ』など音声で知らせてくれる
- ライブ映像を確認しながら会話できる
- ナースコールとして使用できる
- モバイル間通話ができる
- インカム機能搭載
- 骨伝導イヤホンマイクでハンズフリー
 - 耳を塞がないので違和感がなく通常会話に支障なし
 - 骨伝導なのでよく聞こえる
 - スマホとBluetoothで繋がっているため配線がなく邪魔にならない



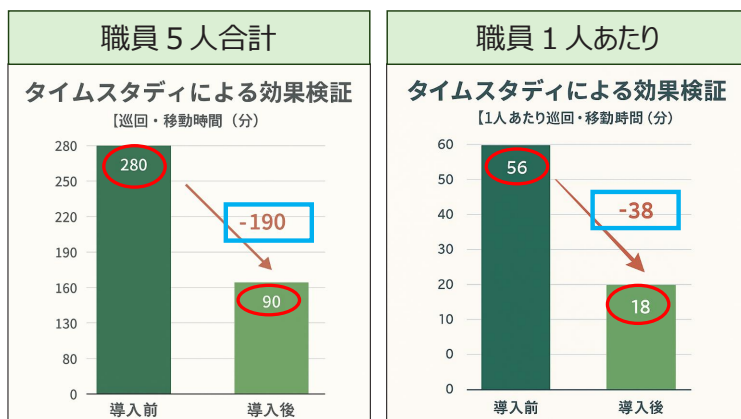
タイムスタディによる効果検証

調査対象	調査期間	調査対象の業務内容
1. 1階 待合・受付	6	
2. 1階 受付・事務		
3. 1階 受付・事務		
4. 1階 受付・事務	4	
5. 1階 受付・事務		
6. 1階 受付・事務		
7. 1階 受付・事務		
8. 1階 受付・事務		
9. 1階 受付・事務		
10. 1階 受付・事務		
11. 1階 受付・事務		
12. 1階 受付・事務		

- 移転前後の業務時間を比較
業務時間 = 巡回・移動に要した時間
- 対象職員：介護職員 5名
- 対象勤務：早出・遅出・夜勤
- 検証期間：2ヶ月

【 検証結果 】

1 勤務あたりの 巡回・移動時間 (分)

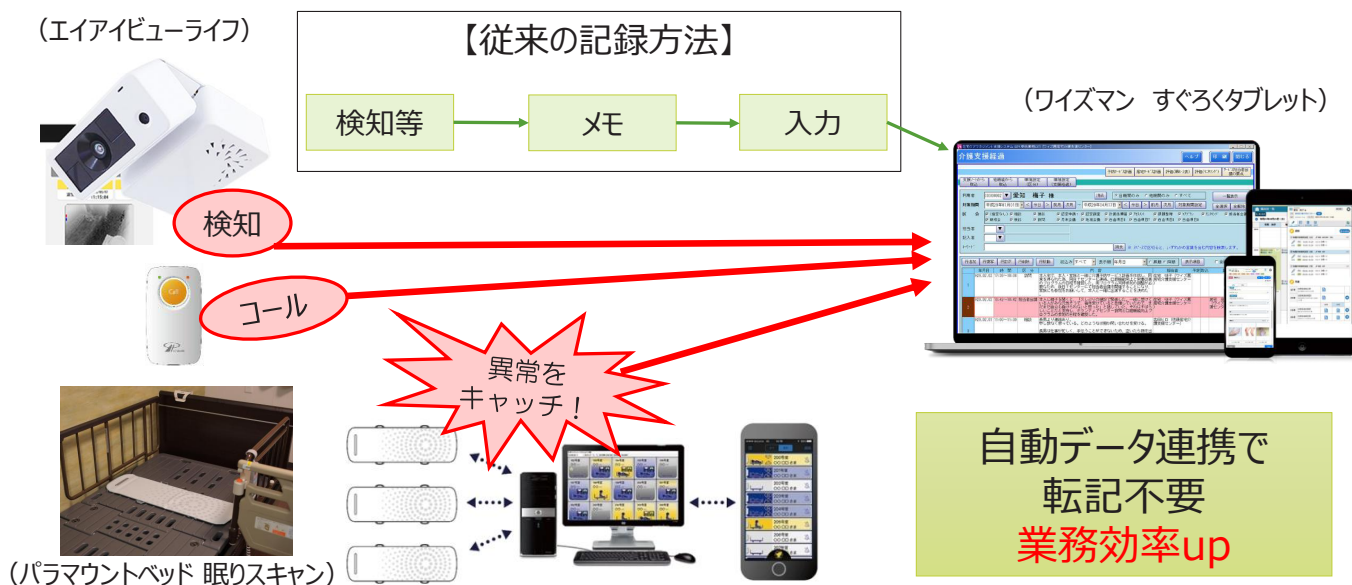


その他の導入効果

- 施設内どこからでも確認できる → 訪室回数減少
- コール対応の状況が共有できる → 無駄足削減
- 職員の身体的・心理的負担軽減
- コールの優先順位・緊急性の判断が迅速に
- 常時録画可能 → 録画映像確認による事故発生時の原因究明
及び事故防止対応策の具体化
- 録画映像による事故報告・家族説明の信頼性向上
- 隔離対応時の非接触コミュニケーション



「見守りカメラシステム」と「介護記録システム」の連携



システム運用で気付いたこと

【 採用状況 】

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
介護	3	6	9	5
看護	0	2	5	0
リハ	0	0	2	4
その他	1	1	5	5
合計	4	9	21	14

良かったこと

- メーカー担当者に相談しやすく、対応も早かった
- 検知項目・境界域の設定変更は、職員が容易に変更できた
- 介護人材確保に繋がった

困ったこと

- 利用者ごとに見守りカメラ検知項目の取捨選択に時間を要した
- 検知項目設定の最適化まで、検知通知が多かった
- 介護記録システムと連携をすると、誤検知も記録として残ってしまい、後から削除する手間がかかった
- 「見守りカメラ＝転倒等の事故が起こらない」と認識する家族がおり、職員のプレッシャーになった
- 自動声掛け機能やデータ抽出などその他の機能を使いこなせていない

当施設の見守りカメラにおける課題

- 取得データをケアプランに活用し、科学的介護を推進
- 機器操作の属人化を防ぎ、業務負担を標準化

メーカー様への期待

- 通知音声を「歩きますよ」➡「〇〇さんが歩きますよ」
- 利用者別、グループ別でのデータ抽出・比較機能 ➡ 介入の有効性をデータで検証
- ケアプランに反映しやすい内容 ➡ 科学的介護
- 対応職員毎のデータ（動きや対応頻度）➡ 人員配置の参考・人事考課

課題②「利用者像の変化による職員の負担増大」

◆ ノーリフトケア宣言施設としての運営を目指す

【目的】 身体的・心理的負担の軽減

【期待できる効果】

- 腰痛予防
- 女性・高齢者等が安心して移乗動作を行える
- 永年勤続に繋がる
- 利用者の安全性が高くなる
 - ・移乗時の転倒、打撲等の事故が予防できる
 - ・皮膚トラブルが軽減（擦過症等の予防）
 - ・無理な体制での移乗がなくなる

天井走行リフト導入決定

- 導入施設見学
- 機器選定
- 研修参加
- リフトインストラクター養成

天井走行リフトの選定

- リフト本体のデザイン（色・形）
- レールの種類・色
（天井の色との調和）
- ベッド仕切りカーテンとの干渉
- 使用時の静音性や可動性
- スリングシート
（種類、着脱のしやすさ、通気性、耐久性、速乾性、衛生面 etc）
- 安全性
- 操作性・職員の使いやすさ
- サポート体制
- 導入費用
- 保証
- ランニングコスト
- 導入施設の生の声

天井走行リフトを全ての居室・リハビリ室に設置



天井走行リフト使用の様子



天井走行リフトを浴室に設置



25



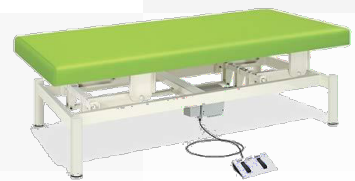
床走行リフト



スタンディングリフト



電動昇降ベッド



スライディングボード



スライディングシート



グローブ



ノーリフトケア キャリアパス任用要件 ~2026年度~		リハビリセンターグリーンTAOKA RE.1.1		
職種	名称	職務に必要となる要件	人事育成の支援	
5	ノーリフトケア （ノーリフトオペレーター）	ノーリフトケア導入、業務の安全に必要となる知識を習得し、施設内各地域のノーリフトケアの普及、運営に貢献した活動の中心的な役割を担う。	【知識】 ノーリフトケアの普及の進め方/ノーリフトケアの普及/ノーリフトケアの普及の進め方 【資格】 【経験】 【スキル】 【その他】	業務の安全に必要となる知識を習得し、施設内各地域のノーリフトケアの普及、運営に貢献した活動の中心的な役割を担う。
		介護者の身体的負担軽減と業務手続、さらに利用者の健康維持と生活の質向上を実現するため、リフト等の活用を促進し、施設内の安全文化を醸成する。	【知識】 リフト導入、運用の基礎知識/リフトの活用/心身/動作/姿勢/足具/履物の特徴/安全確保 【資格】 【経験】 【スキル】 【その他】	リフト導入、運用の基礎知識/リフトの活用/心身/動作/姿勢/足具/履物の特徴/安全確保
4	ノーリフトケア （ノーリフトアシスタント）	ノーリフトケアの目的と必要性を理解し、施設内の安全文化を醸成する。	【知識】 ノーリフトケアの目的と必要性/業務手続のリスク管理 【資格】 【経験】 【スキル】 【その他】	業務の安全に必要となる知識を習得し、施設内各地域のノーリフトケアの普及、運営に貢献した活動の中心的な役割を担う。
		介護者の身体的負担軽減と業務手続、さらに利用者の健康維持と生活の質向上を実現するため、リフト等の活用を促進し、施設内の安全文化を醸成する。	【知識】 リフト導入、運用の基礎知識/リフトの活用/心身/動作/姿勢/足具/履物の特徴/安全確保 【資格】 【経験】 【スキル】 【その他】	リフト導入、運用の基礎知識/リフトの活用/心身/動作/姿勢/足具/履物の特徴/安全確保
3	ノーリフトケア （ノーリフトアシスタント）	ノーリフトケアの目的と必要性を理解し、施設内の安全文化を醸成する。	【知識】 ノーリフトケアの目的と必要性/業務手続のリスク管理 【資格】 【経験】 【スキル】 【その他】	業務の安全に必要となる知識を習得し、施設内各地域のノーリフトケアの普及、運営に貢献した活動の中心的な役割を担う。
		介護者の身体的負担軽減と業務手続、さらに利用者の健康維持と生活の質向上を実現するため、リフト等の活用を促進し、施設内の安全文化を醸成する。	【知識】 リフト導入、運用の基礎知識/リフトの活用/心身/動作/姿勢/足具/履物の特徴/安全確保 【資格】 【経験】 【スキル】 【その他】	リフト導入、運用の基礎知識/リフトの活用/心身/動作/姿勢/足具/履物の特徴/安全確保
2	応用実践者 （ノーリフト・インストラクター）	ノーリフトケアの目的と必要性を理解し、施設内の安全文化を醸成する。	【知識】 ノーリフトケアの目的と必要性/業務手続のリスク管理 【資格】 【経験】 【スキル】 【その他】	業務の安全に必要となる知識を習得し、施設内各地域のノーリフトケアの普及、運営に貢献した活動の中心的な役割を担う。
		介護者の身体的負担軽減と業務手続、さらに利用者の健康維持と生活の質向上を実現するため、リフト等の活用を促進し、施設内の安全文化を醸成する。	【知識】 リフト導入、運用の基礎知識/リフトの活用/心身/動作/姿勢/足具/履物の特徴/安全確保 【資格】 【経験】 【スキル】 【その他】	リフト導入、運用の基礎知識/リフトの活用/心身/動作/姿勢/足具/履物の特徴/安全確保
1	専門実践者 （ノーリフト・スーパー）	ノーリフトケアの目的と必要性を理解し、施設内の安全文化を醸成する。	【知識】 ノーリフトケアの目的と必要性/業務手続のリスク管理 【資格】 【経験】 【スキル】 【その他】	業務の安全に必要となる知識を習得し、施設内各地域のノーリフトケアの普及、運営に貢献した活動の中心的な役割を担う。
		介護者の身体的負担軽減と業務手続、さらに利用者の健康維持と生活の質向上を実現するため、リフト等の活用を促進し、施設内の安全文化を醸成する。	【知識】 リフト導入、運用の基礎知識/リフトの活用/心身/動作/姿勢/足具/履物の特徴/安全確保 【資格】 【経験】 【スキル】 【その他】	リフト導入、運用の基礎知識/リフトの活用/心身/動作/姿勢/足具/履物の特徴/安全確保

ノーリフトケアキャリアパス



介護老人保健施設 リハビリセンターグリーンTAOKA

令和7年度 集団分析結果 一覧

全国平均	人数 (男性/女性)	量的負担	コントロール	上司の 支援	同僚の 支援	量 - コントロール	職場の支援	総合健康 リスク
	-	-	8.7	7.9	7.5	8.1	100	100

※量的負担: 点数が高いほど、負担大
※コントロール、上司・同僚の支援: 点数が高いほど、良好

介護	人数 (男性/女性)	尺度 平均点数				健康リスク			総合健康 リスク
		量的負担	コントロール	上司の 支援	同僚の 支援	量 - コントロール	職場の支援		
令和7年度	44(17/27)	8.0	7.7	8.8	8.6	96	83	79	
令和6年度	39(17/22)	8.1	8.3	8.3	8.1	92	92	84	
令和5年度	39(17/22)	7.6	7.9	8.5	8.1	91	90	81	
令和4年度	37(18/19)	8.1	8.0	8.4	8.1	94	91	85	
令和3年度	33(20/13)	8.2	7.7	8.4	8.5	97	88	85	

※総合健康リスク

120を超えると...**要注意**
→該当部署 **なし**



150を超えると...**健康問題が顕在化、早急な改善を要する**
→該当部署 **なし**



課題③「車椅子の衛生管理が不十分」

◆ 車椅子洗浄機の導入

【目的】衛生管理と業務効率化

【期待できる効果】

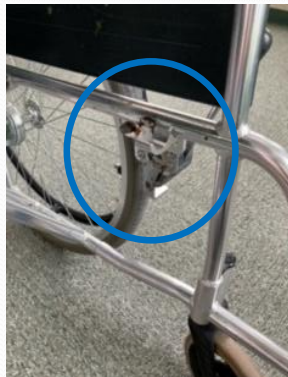
- 清潔な車椅子の提供 ➡ 利用者満足度向上
- 職員の負担軽減
- 洗浄時間短縮でできた時間を有効活用



洗浄前



洗浄後



車椅子洗浄機導入後のコスト比較

※ R5年時点での比較

	職員洗浄		機械洗浄
1台にかかる洗浄時間	30分	→ 時間短縮	10分
4時間で洗浄できる台数	8台	→ 3倍に!!	24台
85台洗浄にかかる日数	11日		4日
1台洗浄にかかるコスト	人件費 500円 + 水道代		約230円 (水道光熱費・洗剤・乾燥込み)
85台洗浄にかかるコスト	425,00円 + 水道代	→ -22,950円	約19,550円

- 購入価格 300万、介護助手の時給 1,000円の場合
 $3,000,000 \div 22,950$ (コスト差額) = 130クールで償却 (月2回の洗浄ペースなら5.5年)
- 関連法人の車椅子洗浄を毎日すれば償却期間は早くなる
- 介護助手が他の業務に就くことができ、実質倍のコスト削減になる
- 機械操作は、洗浄・停止ボタンだけのシンプルな操作で、障害者雇用に繋がられる

成果

- 介護テクノロジーを導入した結果、業務の効率化が実現した
 - 効率化により創出した時間で
 - * 利用者との対話やケアの充実
 - * 職員のスキルアップ研修参加
- ↓
- 利用者・家族の満足度向上
 - 職員にとって働きやすい環境づくり



利用者・職員から選ばれる施設

反省点

- ◆ 機器を導入すること自体はすぐに決まったが、どのメーカーの機器にするか選定に時間がかかった
- ◆ 各機器のエキスパート育成への着手が遅かった
- ◆ 見守りカメラシステムの誤検知への対応にあたり、メーカーとのやり取りに手間や時間を要した
- ◆ 旧施設ではトランシーバー型のインカムを使用していたが、現在モバイル間通話となっている
➡ 不便になったと感じる職員がいた
- ◆ ノーリフトケア推進の体制作りに予想以上の時間を要した
- ◆ スタンディングリフトは対象者が限られた
- ◆ 新築移転の準備と同時進行であったため、一部の職員に負担をかけてしまった

良かった点

- ◆ 理事長方針が明確で導入がスムーズだった
 - ◆ 現場意見が多数反映された
 - ◆ 他法人が施設見学を快く受け入れてくれた
 - ◆ 介護ロボットプラットフォームに相談できた
 - ◆ 補助金（地域医療介護総合確保基金）を活用し、徐々に導入できた
- 【R2年度】・ワイズマンすぐろくタブレット（ICT）
・眠りスキャン10台（介護ロボット）
- 【R3年度】・眠りスキャン27台追加（介護ロボット）
- 【R4年度】・特浴（介護ロボット）
- 【R5年度】・床走行リフト（介護ロボット）
・スタンディングリフト3台（介護ロボット）
- 【R6年度】・見守りカメラ（開設準備金）

介護現場で深刻化している課題

- ◆ **利用者の重度化**：要介護4・5が増加、移乗・排泄・食事介助など負担増
- ◆ **事故防止の難易度上昇**：転倒・誤嚥・夜間見守りの負担
- ◆ **人材不足**：介護・看護・リハビリ・栄養・相談員、全ての職種が不足
- ◆ **DXの制度と現場ギャップ**：導入したいが、運用負担が増える
- ◆ **物価高騰・エネルギー費増による経営圧迫**

「介護テクノロジー」「ノーリフトケア」等を導入し、介護業界全体で克服を

メーカーの皆様への願い

- ① **現場負担ゼロ**を目的とした設計 ➡ 設定が簡単、誤検知が少ない、アラートが適切
- ② 多職種で使える**シンプルなUI** ➡ 全ての職種が同じ画面で理解できる
- ③ 既存**システムとの連携** ➡ 二重入力ゼロのデータ連携を
- ④ 導入後の**サポート体制の強化** ➡ トラブル時のクイックレスポンス、現場研修
- ⑤ **現場と一緒に作る開発プロセス** ➡ 使える、使いやすい機器の開発

『介護テクノロジー等による生産性向上の取組調査及び効果測定事業』
実証調査に協力して

【夜間見守り】

- タイムスタディ調査（ハカルト）
 - ➡ 現場職員は手間と感じた
一部データ登録したが、反映されておらず再度調査した
 - ➡ **効果測定機能付き機器の開発**
- 利用者の情報（食事、排泄、入浴、記憶、会話、活動など22項目）×2回 入力
 - ➡ 対象利用者数によってはかなりの負担
 - ➡ **LIFEの情報と紐づけ**

終わりに

- 現場はテクノロジーを必要としている
- しかし“**使いこなせるテクノロジー**”でなければ意味がない
- 科学的介護に活かせるもの
- 実証データがとれるもの
- 介護現場は多職種連携が前提
- 『現場』『メーカー』『国』が三位一体で取り組む

導入支援 + 定着支援 + **継続支援**

- 保守契約費用
- バージョンアップ
- 故障、修理費用
- 端末等の更新
- 職員研修
- エキスパート養成

見学申込
お待ちしております!!



ご清聴ありがとうございました